リハビリデイ 急速に増加

業界別 最新動向 リハビリ編

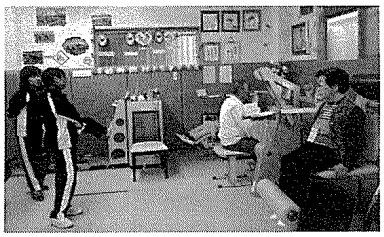
ここ数年でリハビリ特化型の小規模デイが急速に増加している。高齢者の間でも、介護予防としてのリハビリに注目が集まっている。しかし、どのようなリハビリが本当に効果があるのかは分かりにくい。高齢者を取り巻くリハビリ事情についてリポートする。

リハの種類多様化 高齢者も効果重視

「本当にこのやり方で効果が出るのか疑問だ」このような声は介護予防のために運動に取り組む高齢者からよく聞かれる。少子高齢化が進む中で、家族に老後の面倒を見てもらえない人が急速に増加し続けている。要介護状態にならないようにすることは、高齢者にとって非常に切実な問題となっている。リハビリデイに自ら見学にくる高齢者も増えているという。国としても介護給付費用を削減するため、今回の介護報酬改定では、加算を新設し、介護予防への取り組みを事業者に促している。

このような状況の中で、多くの事業者が介護予防への取り組みとして多種多様だ。何を選択すればいいのか迷っている事業者も多いようだ。一番重要なのは、効果がはっきりと分かることだ。高齢者の介護予防やコストに関する意識は高まっているが、確かな効果が出ているため、口コミで利用者に対する確かな見識があり、確実に効果が出ているため、口コミで利用者は増えている。

「マシンを使った運動により、体が動くようになったことで、自信を取り戻し、家族が驚くほど、性格が変わる人もいます」（渋谷社長）



▲マシンを活用したリハビリデイの様子

介護予防への意識向上

がら行うものだ。何を選択すればいいのか迷っている事業者も多いようだ。一番重要なのは、効果がはっきりと分かることだ。高齢者の介護予防やコストに関する意識は高まっているが、確かな効果が出ているため、口コミで利用者は増えている。

「マシンを使った運動により、体が動くようになったことで、自信を取り戻し、家族が驚くほど、性格が変わる人もいます」（渋谷社長）

渋谷達夫社長は、運動

いれば、自然と利用者は増えていく。開設1年が経つリハビリ特化型デイサービス渋谷館（東京都足立区）は、現在、稼働率100％だという。体育大学で講師を務めていた渋谷達夫社長は、運動に対して運動を指示しな

サロンオールディーズ（東京都中央区）は東京都老人総合研究所が提唱する「包括的高齢者トレーニング」（CGT）に基づいたプログラムを内蔵したマシンを使ったリハビリ特化型デイサービスの開設支援を行っている。昨年2月に開設支援したデイサービスも稼働率100％を達成している。同社の菅澤清孝社長に話を聞いた。

菅澤清孝社長

開設支援したデイ 1年で稼働率100％

――マシンを使ったリハビリデイの開設支援を行っているそうですが、どのようなマシンですか。

菅澤　東京都老人総合研究所が提唱する「包括的高齢者トレーニング」（CGT）に基づいたプログラムを内蔵した4種類の運動機器で、効果的に機能回復を行います。マシンとコンピューターが接続しており、個別の運動記録や履歴、機能評価等をデータベースで管理出来ます。その為、職員が記録したり、機器の調整を行う必要がありません。職員は事務的作業ではなく利用者とのコミュニケーションに注力できます。また、利用者に合った負荷に自動調整される仕組みであるため、確かな運動効果が出ます。マシンを導入したデイでは、3ヶ月に一度、効果測定を行っていますが、確かな効果が出ています。

――どのような効果が出ているのですか。

菅澤　昨年開設したリハビリデイのやわら館（東京都川口市）では、介護度の再認定に際し、3名の利用者に改善が見られました。要介護度3から2になった女性は利用開始時には杖をついて5m程度しか歩行出来ませんでした。しかし、週2回の利用で、現在は毎回200mの距離を目指して、歩行訓練に挑戦しています。また脳梗塞で倒れた後に、この施設でリハビリを開始した40代の男性は約2ヶ月で要介護3から要支援2までになりました。確かな効果が出ていれば、利用者は口コミで増えます。

――リハビリ型デイを運営するメリットは。

菅澤　マシンの設定から報告書までを自動化したことにより最小限のスタッフで運営出来ます。介護ビジネスは儲からないとよく言われますが、人件費を抑えることで収益性を確保できます。当社のマシンは4種類ですが、今までのやり方だと、マシン4台に4人のスタッフが必要ですが、負荷調整や記録が不要なので、スタッフ1人でも対応可能です。また、介護スタッフにとって負担の大きかった、運動機器の調節やリハビリ記録の作業を自動化したことで、作業を効率化出来ます。

――今後の展開について。

菅澤　このようなデイが地域の拠点となり、単なる機能訓練だけでなく、コミュニティの形成に役立てばと考えています。また、マシンで運動を行うと自動的にデータが蓄積されます。このデータを多く集めることで、より介護予防に効果のある運動メニューが開発出来ます。今後は事業者ごとが個別に行なうのではなく、それぞれがデータを共有し、より適切な介護予防を考えていく必要があると思います。より多くの事業所に取り入れてもらうことで、予防の確実性が増し、高齢者が元気に暮らせる社会を生み出せると考えています。

同施設では、サロンオールディーズ（東京都中央区）が販売するリハビリマシン「リハトレーナー」を採用している。同社のマシンは、東京都老人総合研究所が提唱する「包括的高齢者トレーニング」（CGT）に基づいたプログラムを内蔵しており、確かな効果が出ていることに定評があるという。